

第23号
穴生学舎
新聞編集委員会

穴生学舎かわら版

第22回ふれあいスポーツ大会

紅組が大差で勝利

怪我人ゼロで無事終了

第22回ふれあいスポーツ大会は6月13日10時から、六生下ームで行われた。例年とは採点方法の一点が変更され、最初2種目までは紅白同点だったが、その後紅組が徐々に差を広げ、結局大差をつけて白組に勝利した。



トラックいっぱいになった全員参加の炭坑節の輪

域ふれあい(が)選手宣誓して急がば回れから競技入りした。スタートから二種目までは紅白同点、例年とおり接戦が予想されたが、その後紅組が徐々に優勢になり、各種目で差を広げ、結局122対98と24点の大差をつけて勝利した。競技は一般参加者も含めて全員参加のダンスで終了。日野俊彦所長の挨拶に続いて原田保大会副実行委員長の閉会宣言で、怪我人もなく大会を締めくくった。

開会式の挨拶から



この大会は、地域との交流も含め、研修生と穴生学舎を拠点として活動するボランティア・クラブの各グループが一室

に会し、親睦と交流を深め、ふれあいと健康づくりを進めていただくものです。本大会を通じて研修生同士の繋がりが、地域との繋がりがより深くくなって頂ければ幸いです。出場選手は勿論、応援の皆さんにも声援を頂きたいです。研修室とはまた違った雰囲気の中で、心に残る楽しい一日を、お過ごし頂きたいものです。



最後に、実行委員会ははじめ、運営協力のおかげでこの会の皆様ならびに開催に協力いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ご多忙中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

当学舎にとって、今回22回目のふれあいスポーツ大会となりました。ご家族や地域の皆様にも一緒に楽しんでいただける競技もございました。奮ってご参加いただきたいと思います。くれぐれも怪我などないよう、十分ご留意いただきたく、祈念しております。

実行委員会 議事録から

第1回実行委員会 4月20日

◎大会実行委員長に萬徳学さん(実用書道)副委員長に村木菊代さん(健康スポーツ)原田保さん(健康管理)を選出。◎プログラムの一部変更を報告。昨年度の「借り物競争」を「仲良しラケット」に変更。◎第2回実行委員会 5月8日 ◎役決め

採点方式とプログラムの一部を改善 借り物競争を仲良しラケットに変更

◎設営・撤去についての役割分担を事務局から依頼。実行委員で決定。◎第4回・第5回委員会については省略。

開会宣言=村木菊代さん、選手宣誓=岩崎加代子さん(紅組代表・歴史に学ぶ)・曾我秀太郎さん(白組代表・地域ふれ

あい)、閉会宣言=原田保さん。◎応援席の場所をくじ引きで決定。◎村木副委員長が、競技係を正の委員、召集係を副の委員とするよう提案。絵画入門コースは、正副の役割を逆にするよう申し出て了承された。

施設見学ついで拝見

若松区の瀬瀬(オート)を見学。埋立地にできた池に自然が戻っていた。公害都市の汚名を返上するホッとしてきた空間。(弥永恭平)文化伝承

汚名を返上する空間

若松区の瀬瀬(オート)を見学。埋立地にできた池に自然が戻っていた。公害都市の汚名を返上するホッとしてきた空間。(弥永恭平)文化伝承

感動を写真に収める

五月二十五日、クリンパークへ。バラ園に咲き誇る薔薇の美しさに感動し、構図を確認しつつ、その感動を写真に収めた。

初めに香道を体験

生まれてはじめての香道体験。「傾けないで、鼻を近づけて」、公家になったつもりで、神秘的な顔でクワン。違いを判断するかどうか。健康づくりサポーター

JICA九州を訪問

JICA九州を訪問した。各国にボランティアとして

焼成後はつむも縮む

五月十三日、小倉北区のTOTO衛生陶器生産工場を見学。粘土の便器の原型が、焼成後は3割がた縮むことなどを学んだ。

図書室へ行く

2014年本屋大賞受賞などでベストセラーになったのが村上水軍を題材にした「村上海賊の娘」。作者の和田竜が四年間をこの一作にかけた力作で、市立の図書館だと予約から一年以上経っても借り出せないほどの人気ぶり。それがなんと、当学舎の図書室にあった。これまでにの利用者は、僅かに四人。ぜひ一度、図書室を訪ねてみて。

入学から三ヶ月 新入研修生に聞く

応募の動機、学舎生活の満足度など、入学後三ヶ月の今を聞いた。

歴史に学ぶ

歴史関係の本や城巡りが好きで退職が楽しみだったが、いざ自由になると何もいらないでたらうわ。こやあいかん何とてかたねは。以前から知っていた穴生学舎に来てみたら、大好きな歴史のコースがあり早速入

小学時代の友に再会

地域民生委員さんから入学してよかったあーこれらが楽しみたい。

もっ少しきれいな字が書きたくて、実用書道に決めました。毎週が本当に楽しい日々で友達もでき、それより何より小学校時代に仲のよかった同級生に、80年ぶりに会えたことが、最高でした。いま、何の束縛もなく、楽に学舎生活が送られてくることに感謝しています。来年は、挑戦してみたいコースを見つけて、またチャリンギしてみようと思っています。

閉会式の挨拶から

怪我なく喜ばしい
日野俊彦所長



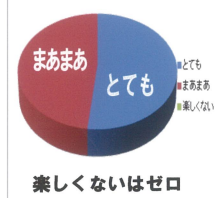
なによりも、怪我一つなく終わったことは喜ばしい限りです。実行委員はじめ、皆様の「努力」に感謝します。お疲れ様でした。

アンケート

新入研修生の見たスポーツ大会

今年、11名の新入研修生を迎えた。今回、半舎の三大行事の一つを初めて経験する。そこで、スポーツ大会についてフレッシュな感想を聞いてみた。

楽しかったですか？



「スポーツ大会に参加して」
①とても楽しかった 50
②まあまあ楽しかった 41
③楽しくなかった 0
④楽しかったです 0
人はゼロ。60代70代の男性は、「とても」が「まあまあ」を上回った。女性の80代はその逆。70代では、同数の「あま」だった。

「2フロラム(競技の種目について)」
①多すぎ 0
②ちょうどいい 84
③少なすぎる 7
④さすがに「多すぎる」と思っている人はいなかった。大半が「ちょうどいい」と思っていた人が「少なすぎる」と感じた人もいた。男性の60代と70代に一名ずつ、女性の60代に四人70代に一人のあわせて七人が「少なすぎる」と答えた。しかしその本意は「もっとたくさん出場したかった」というところにあるようだ。「二種目は出場しようと思っていだが、一種目しか出られない」とコメントを寄せた人もいた。

競技種目のアイデアを聞いたところ「椅子取りゲーム」「綱引き」「フープボールを足で蹴る」「ユニコーン」など、スポーツから一種目などの意見があった。(下欄に関連記事)

面白かった競技は？
面白かった競技は「紅白応援合戦」「アンパンにほえる」。「大玉転がし」など。面白くなかったのは「急がば回れ」「仲良しラケット」「大玉転がし」。「大玉...」は「小さい子がさわれない」からと、注釈入りの回答だった。

上欄のアンケートで、競技種目に対するアイデアを聞いた。ほとんどは、種目名を聞いただけで内容を理解できるものだったが、中には説明の必要なものもあった。そのうちの「フープボール」を置きの一人が上から足を踏み、放り出されたボールをもう一人が籠で受ける、というもの。図解しての回答だった。

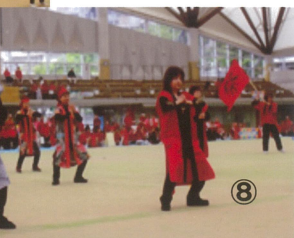
スポーツ大雑記帳

競技種目のアイデア
シューターで球を放る



スポーツ大会 スナッフ

大玉転がし①②= (上) 白組 (下) 紅組
③仲良しラケット
④手をつなごう



⑤アンパンにほえる!
⑥玉入れ
⑦⑧紅白応援合戦= (上) 白組の演技 (下) 紅組の演技



紅白応援合戦物語

五分間に、練習成果の全てをかける。これは、紅白応援団の結成から本番までを追った真実の物語である。

紅白妖怪の衣装は苦心の自作

出し物がなかなか決まらないなか、時間に終わる格好で「きよしのスンドコ節」で一応取った。が、その夜、ある団員から小川純一団長(歴史に学ぶ)へ「ズンドコ節は三年前にもやっていた。知人に踊りの先生がいて、教えても良いと...」と電話がかかってきた。そして、二回目の会合でサブちゃんの「祭りに決まった」。

陣原公民館で踊りを指導中の安達先生。「ご自分のスケジュールを変更してまで紅組のために尽力してくださった」。一方白組は「同じ動作

全てを使って自主製作に励んだ。

今年の出し物は、紅組がサブちゃんこと北島三郎の「祭り」、白組がアニメ妖怪ウォッチから「妖怪体操第一」だった。白組は長谷川善子団長(絵画入門)の提案がすんなり受け入れられて即決。ただ、紅組の場合はそうも行かなかった。

練習は五月二十五日か

「ほかのコースの友達が出来たが、少し自信が...」。「楽し〜練習できた」。



紅白応援合戦の白組の演技が始まる。応援団と向き合っ

幼児が応援団を応援
お得意の妖怪体操で